

# 文化

## 沈黙に向き合う 沖繩戦聞き取り47年

石原 昌家

(40)

32年間におよんだ家永教  
科書裁判の過程で、「沖繩  
くよう」という事実上の  
戦に関する部分」が198  
4年の第3次訴訟ではじめ  
て争点になり、沖繩出張法  
廷が開かれることになっ  
た。自国軍隊が自国住民を  
虐殺した沖繩戦の実相を全  
国に伝える絶好のチャンス  
ととらえ、沖繩のマヌコミ  
は空前絶後の報道態勢をと  
つて裁判の争点を報じ始め  
たことは、前回(4月26日  
述べた。

日本府から、沖繩戦の  
教科書記述に日本軍の住民  
殺害(虐殺)よりも「数の  
研究が深化することになっ  
たこと、前回(4月26日  
述べた。

## 「虐殺」4766人

日本軍の「間接殺害」も含め調査



### 教科書に真実を

家永氏が決意

教科書検定訴訟の沖繩出張  
法廷について報じる1988年  
2月9日付琉球新報朝刊

### 検定訴訟出張法廷

証人尋問の前に  
証人尋問を前にした先輩  
経緯に深く感謝している。

# 家永裁判で研究深化

## 住民虐殺に「直接」「間接」両面

### 琉大・大田教授が発表

### 集団自決上回る

同僚の安仁屋昭沖繩国際  
大教授(当時)は「最近の  
安仁屋先生はヒリヒリして

告家永氏と証人安仁屋氏が  
ら依頼された単なる資料集  
めだけであった。それが  
4年後、よもや私がその  
裁判の第2番の証人を原告  
家永氏側から依頼され、ヒ  
リヒリした緊張と苛立ちを  
体験することになるとは、  
そのとき夢想だにならな  
かっ

か口にしていた。  
また、沖繩師範学校の鉄  
血勳隊員として学徒動員  
された九死に一生を得た生  
存者で研究者でもある大田  
昌秀琉球大教授は、証人尋  
問に備え、裏付け調査を急  
ピッチで実施していた。そ  
の調査結果は、大田氏が証  
人尋問を受ける前日の88年  
2月8日、公表された。そ  
れは琉球新報も翌9日朝刊  
の社会面で「住民「虐殺」  
4766人」集団自決上回  
る日本軍の間接殺害も含  
ものである』ことを証言す

被書は集団自決が多いか  
ら、これを加えなければ沖  
繩戦の全ぼうはわからな  
い」と修正意見(引用者注  
)と修正意見(引用者注)  
合格になるので、事実上の  
命令といえる)をつけたこ  
とに対し、これまでの文献  
の調査結果は、大田氏が証  
人尋問を受ける前日の88年  
2月8日、公表された。そ  
れは琉球新報も翌9日朝刊  
の社会面で「住民「虐殺」  
4766人」集団自決上回  
る日本軍の間接殺害も含  
ものである』ことを証言す

る。」と、大田氏の証言示  
すの原告側証人として、東  
京高裁で尋問を受ける前  
に、第1審の安仁屋昭証  
人、田港朝昭補佐ら数人  
の研究仲間と討論し、熟考  
を重ねた上で、私の「意見  
書」をまとめて裁判所に提  
出した。家永氏の教科書記  
述で「日本軍のために殺さ  
れた人も少なくなかった」  
というのには「日本軍のため  
に直接殺された人の数」  
と「日本軍のために必然的  
に死に追い込まれた(11日  
本軍のせいではない)人の  
数」に分け、裁判官たち  
に短時間に多様な沖繩戦体  
験の理解が容易に得られる  
よう思いついたのが主要テ  
ーマだった。だが、それは  
すでに大田氏が証言前日の  
記者会見で、日本軍による  
住民の「直接殺害」と「間  
接殺害」という表現を用い  
て分析していたのだ。私は  
大田氏の着想にヒントを得  
ていたのだ。いまその記  
事を読んで確認するに至っ  
た。私は、フィールドワー  
クに集中しすぎて先達に学  
ぶ姿勢が欠けていたよう  
だ。今回は、沖繩戦研究の  
到達点を示す決定的証言を  
紹介する。

着眼点の継承  
私は「沈黙に向きあう」  
の本紙連載にあたって31年  
ぶりに、この新聞記事を読  
み「アツ」と驚いた。91年  
10月21日、この裁判の第2  
審の原告側証人として、東  
京高裁で尋問を受ける前  
に、第1審の安仁屋昭証  
人、田港朝昭補佐ら数人  
の研究仲間と討論し、熟考  
を重ねた上で、私の「意見  
書」をまとめて裁判所に提  
出した。家永氏の教科書記  
述で「日本軍のために殺さ  
れた人も少なくなかった」  
というのには「日本軍のため  
に直接殺された人の数」  
と「日本軍のために必然的  
に死に追い込まれた(11日  
本軍のせいではない)人の  
数」に分け、裁判官たち  
に短時間に多様な沖繩戦体  
験の理解が容易に得られる  
よう思いついたのが主要テ  
ーマだった。だが、それは  
すでに大田氏が証言前日の  
記者会見で、日本軍による  
住民の「直接殺害」と「間  
接殺害」という表現を用い  
て分析していたのだ。私は  
大田氏の着想にヒントを得  
ていたのだ。いまその記  
事を読んで確認するに至っ  
た。私は、フィールドワー  
クに集中しすぎて先達に学  
ぶ姿勢が欠けていたよう  
だ。今回は、沖繩戦研究の  
到達点を示す決定的証言を  
紹介する。

(今回は31日掲載)